

平成19・20年度 文部科学省
大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）
新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム

OJT による学生の自主性を育む支援

教職員のカウンセリングマインドと学生のリーダーシップ能力の向上



独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校





豊かな学生生活を支援し、 有為な技術者を社会に輩出するために 私たちは、努力し続けます。

松江工業高等専門学校
学校長 荒木 光彦（工学博士）

松 江工業高等専門学校は、全国に55校ある国立高等専門学校の一つで、1964年に創設されました。国立高等専門学校は「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成する」ことを目的として設置されています。

その特徴は

1. 中学校卒業後の早い年齢段階からの5年一貫専門教育
2. 理論的学力・体系的知識という基礎の上に立ちつつ、実技の訓練と創造的活動を重視する実践的技術教育
3. 少人数クラス編成、および教授、准教授、助教などの教育スタッフによるきめ細かな教育指導

といったところにあります。

本校では、教育目標「(ま) 学んで、(つ) 創れる、(え) エンジニアの育成」を合言葉として、全ての教育活動に取り組んでいます。すなわち、「学んで」において、“教養、技術の基礎、対話力を身に付け、自己を向上させようとする姿勢”の涵養を、「創れる」において、“さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲”の育成を、「エンジニア」において、“世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志”の確立を目指しつつ、技術者としての基礎学力と技術を身に付けさせようとしています。

このように、技術者教育・人間教育の場として地道に努力を積み重ねている中、一方では日々様々な問題に直面することが多くなってきました。「少子化」、「多様化」をキーワードとして語れるであろう様々な問題が、今日多くの教育の現場で起こっています。我々は、このような社会現象ともいえる教育現場での諸問題を解決し、本校の教育目標で掲げる実践的技術者の育成に取り組むために、教育体制、教育改善を推進し、より価値のある技術者教育が提供できるように努力しています。

学生支援GP の紹介

近 年、進学率の上昇、国際化の進展に伴う外国からの留学生増、教育内容の多様化や高度化など、学生を取り巻く環境が大きく変化しています。また資質、能力、知識の異なる多様な学生の増加とともに、少子化、ニート・フリーターなどの様々な社会的課題も生じており、学生支援の充実が重要な課題となっています。

学生支援GPとは、こうしたことを背景に、学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図ることを目的とするものです。

平成19年度文部科学省 「新たな社会的ニーズに 対応した学生支援 プログラム」 選定理由

松 江工業高等専門学校においては、学生支援に関する目標等に基づき、学内の組織及び掌外の諸機関との連携等によって学生支援の取組を着実に実施されており、その結果はISO14001の取得において実証されるように環境問題の真摯な取組と継続的な努力に裏づけられています。

また、今回申請のあった「OJTによる学生の自主性を育む支援」の取組は、「価値観が多様で変化の激しい現在社会の中で自己の明確な将来像」を見出すことの難しい学生に対して『自主性を育み伸ばす』ために、学生のリーダーシップ能力と教職員のカウンセリングマインドの向上を意図して、OJT手法による支援プログラムであり、他に見られない工夫ある取組であると言えます。

特に、OJTによるカウンセリングマインドの向上は学生支援の成否を決める鍵であり、学生と教職員との協働的な能力向上プログラムで、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。

プログラム 概要等

「価値観の多様化」がいわれ、多様な選択肢からの自己責任による選択が求められています。しかし将来の自分のための選択には、具体的な将来像の獲得と自己変革の積極的な姿勢が必要となります。

本校では、自己を向上させようとする自主性を育むことを教育方針としてきました。まず1～3年を「自主性を育てる段階」とし、多様な学生に対応する手厚い指導を行い、そして4・5年を「自主性を伸ばす段階」とし、自己選択の姿勢を求めています。またキャリア教育により、将来像の明確化を促す努力をしています。

しかし、学生の質的な変化により的確に対応するため、OJT による2つの新しい取組を始める必要が出てきました。本事業は、OJT の手法により、自己を向上させようとする学生の自主性を育むことを目的とします。この目的の達成のため、現在既に確立されている教職員同士の連携を深めた体制を、さらに強化する2つの取組を新たに行います。

第1は、「自主性を育てる段階」と位置づけた1～3年を主な対象として、学内での OJT による教職員のカウンセリングマインド向上を図る取組（以下、[教職員 OJT] と略称）です。多様な学生に対応する手厚い学習指導・生活指導を行うために、教職員のカウンセリングマインドを専門家の助けを借りながら向上させる努力をします。

第2は「自主性を伸ばす段階」と位置づけた4・5年を主な対象として、学外での OJT による学生のリーダーシップ能力向上を図る取組（以下、[学生 OJT] と略称）です。卒業生の資質と能力についてのアンケート結果から、高専卒業生の短所としてコミュニケーション力・リーダーシップ能力の不足が明らかになりました。そこで、学内から学外へ活動の場を移し、学生自らの企画・運営による取組によって経験を積み、これらの能力を養成していきます。



今までの 取り組み

学生支援に対する現在の基本的考え方等について

学生支援に対する 理念や目標

- 価値観の多様化…自己責任による選択
- 少 子 化…多様な学生

教育目標 学んで創れるエンジニア

自ら学ぼうとする姿勢
創る意欲
技術に挑戦する意思



自主性

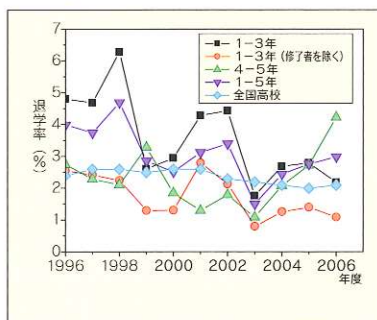
年齢に応じた指導

明確な将来像、自己変革の姿勢

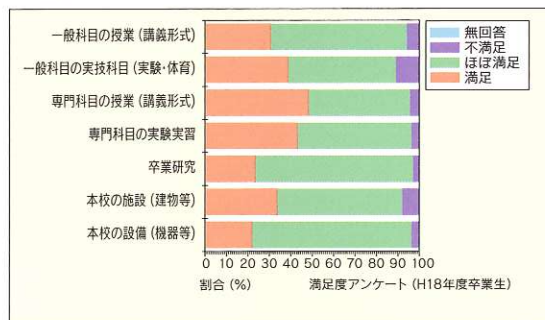
自己を向上させようとする
「自主性」を育てること

現状の学生支援の 効果

● 退学率の年推移



● 卒業生の満足度アンケート結果



本校での学生支援の 考え方

● 1～3年と4・5年との分離・差別化

1～3年…自主性を育てる段階

朝の教員連絡会 (毎朝8:30-8:35)

学年会 (週1回)

学生相談室 (毎日1時間) 校内清掃 (毎日10:20-10:30)



4・5年…自主性を伸ばす段階

選択教室制、学生掲示板による情報連絡、校内清掃、学生会・寮生会活動における自主的な行事企画・運営

学生支援の 現状と不十分な点

● 学生支援のために連携を図る体制が確立

学年会・教員連絡会による情報の共有化

● 教職員対象の研修会実施

「学生相談の基本的姿勢」
「発達障害と考えられる学生への対応」

● 学生会・寮生会活動での自主的な行事企画・運営

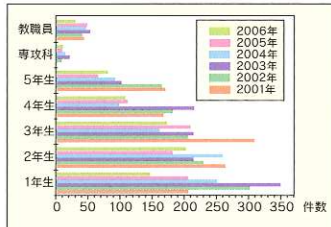


教職員の
カウンセリングマインド
向上

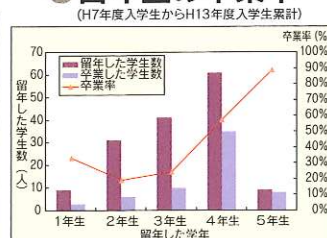
学生の
リーダーシップ能力
向上

新たな取組の趣旨・目的①

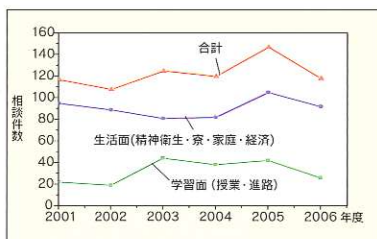
● 保健室利用件数



● 留年生の卒業率



● 学生相談室利用件数年推移



1～3年で留年した学生の
卒業は極めて難しい

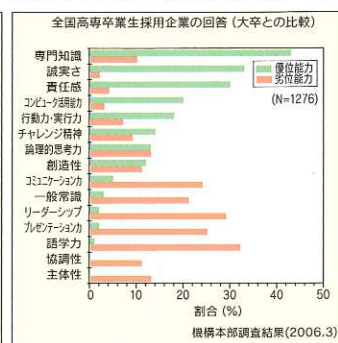
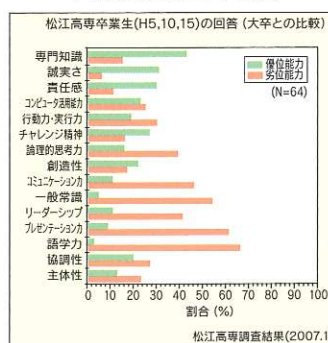
手厚い学習・生活
指導がさらに必要

新たな取組の趣旨・目的②

● 卒業生の資質と能力についてのアンケート結果

申請校卒業生の回答

全国高専卒業生を採用する企業の回答



コミュニケーション力、プレゼンテーション力、
リーダーシップなど、対人交渉力に乏しい

リーダーシップ能力等の向上がさらに必要

新たな取組内容

● 新たな取組と関連したこれまでの取組

校内でのOJTによる
教職員のカウンセリング
マインド向上

学外でのOJTによる
学生のリーダーシップ能力
向上

これまでの取組
1～3年生対象

これまでの取組
4・5年生対象

多様な学生に対応する手厚い
学習指導・生活指導

受身の姿勢から自ら行動する
姿勢となる指導

● 朝の教員連絡会 (毎日)
行事や学生の動向などの情報の共有化
学生指導の統一化

● 選択教室制
(クラスルームの撤廃)
学科間共通講義科目の開講

● 学年会 (週一回)
担任、教務・学生・寮務委員会および
学生相談室が参加

● 学生掲示板による情報連絡
「担任制」から「アドバイザー制」へ!
指示待ち姿勢からの脱却

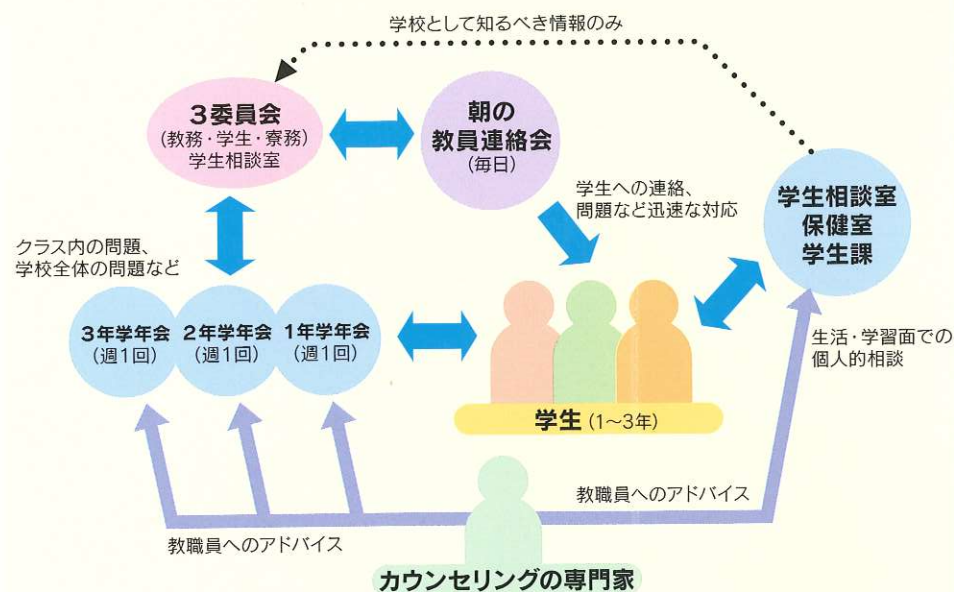
● 学生相談室 (毎日一時間)
学生相談室員 (教員5名による交代制) が
放課後に待機

● 学生会・寮生会活動
自主的な行事の企画・運営

教職員 OJT の概要

学内でのOJTによる 教職員のカウンセリングマインド向上

- 専門家の助けを借りて、教職員のカウンセリングマインドを向上させる



教職員OJTの独自性・有効性

- 教職員同士の連携の場 (学年会等) に専門家 (常勤職員) を配置

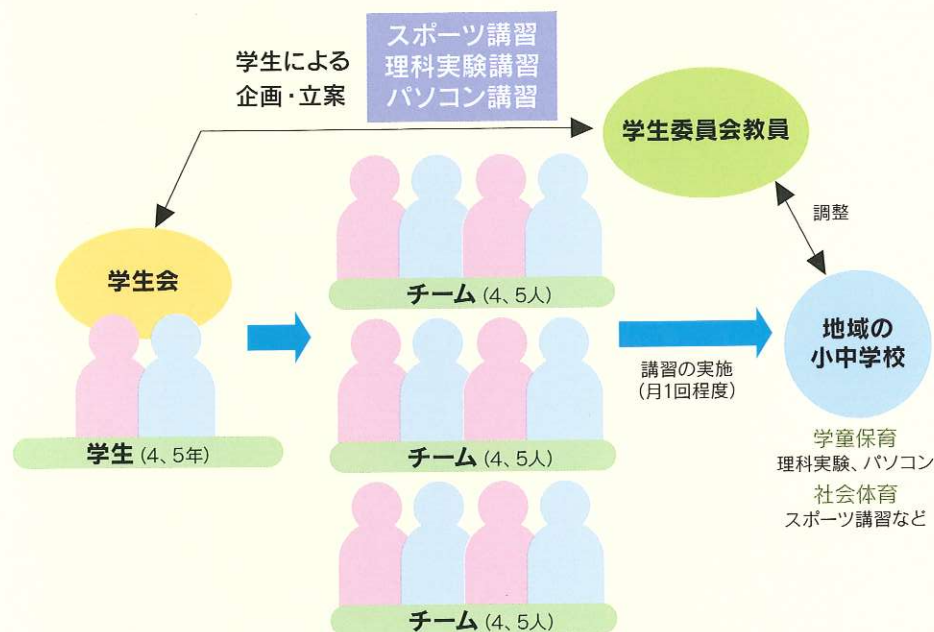


既に確立されている教職員同士の連携を深めた体制をさらに強化

学生 OJT の概要

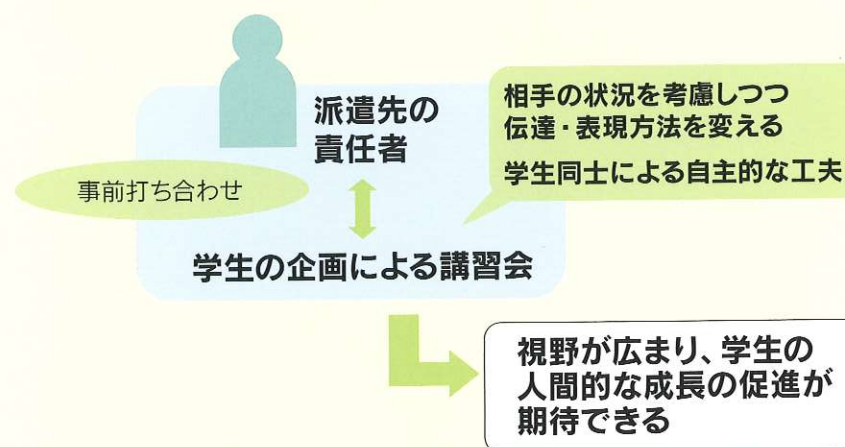
学内でのOJTによる 学生のリーダーシップ能力向上

- 学外 (小・中学生の授業やクラブ活動、学童保育・社会体育の場) でのリーダー体験



学生OJTの独自性・有効性

- 学内の学生会・寮生会による行事等の運営を、学外に発展



観察力・コミュニケーション能力・マネジメント能力など、リーダーとしての資質向上

期待される 効果と将来性

教職員 OJT

本事業を実施することで、教職員のカウンセリングマインドの向上を図ることにより、学生支援の質的向上とともに教員の学生支援に対する意識改善を図ることができる。こうした学生支援の取組により学生の自主性を育てることで、ドロップアウトを軽減する効果が高まる。

○TEG を含む学生の意識調査を事前に行うことにより、学生支援における具体的な問題点を把握することができる。そして、これらを学年会・学生相談などの場で学生支援を行う際の基礎データとして活用することができる。また、調査結果を本校における学生支援の総合的な取組の改善に反映し、学生のドロップアウトの軽減につなげることができる。

○学内に専門家を配置することで、即時的・直接的な助言を得ることができ、教職員のカウンセリング能力の向上を図ることができる。

○教職員連携の場合（学年会、教員連絡会など）で得られた専門的助言、およびその対応について記録し、学内に向けて発信することで、SD の継続的な取組とすることができる。



学生 OJT

本事業を実施することで、4・5年生のリーダーシップ・協調性の向上を図り、学生の自主性を育てる。高専卒業生の社会的評価にあげられるリーダーシップ・協調性の不足などの欠点の改善を図ることが、[学生 OJT] を経験した学生の資質能力の向上につながる。また、こうした学生の積極的な取り組みは他の学生の模範ともなり、学校全体の活性化が期待できる。

○学生が既に身につけた知識・経験から、派遣先の主として小中学生に講習可能な内容を検討する。それを講習対象の実情を考慮しながら、学生が講習会の企画・立案を行うことで、リーダーシップ能力・マネジメント能力を向上させることができる。

○ニーズ調査や日程調整等を行なうことで、事業を円滑にすすめることができる。

○企画・立案した講習会の内容を、学生代表と派遣先責任者とで事前に協議することにより、学生のコミュニケーション能力を向上させることができる。

○実際に講習会を実施することで、本取組の目的である学生の自主性を育むことの一助とすることができる。

○参加学生を対象とした相互評価アンケート調査並びに派遣先を対象としたアンケート調査を実施することにより、学外フィールド活動の問題点を把握し、継続して活動を行う際の基礎データとして活用することができる。また、調査結果を学内における学生会・寮生会活動の取組の改善に反映し、学生の意識向上につなげることができる。



独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校

〒690-8518 島根県松江市西生馬町 14-4
TEL:0852-36-5111 FAX:0852-36-5119
URL: <http://www.matsue-ct.jp>